



2009年 第11回

松本・安曇野未来レシピ

テーマ：「かるたに込められた松本JC50周年50の思い」

講演：久世 良三氏(株式会社 サンクゼール社長)

パネルディスカッション：柳沢 京子氏(株式会社柳沢京子事務所)

武者 忠彦氏(信州大学 経済学部 助教授)

林 勇二氏(新まつもと物語代表)

開催日時	平成21年11月28日(土)	13時00分～15時30分
開催場所	松本市美術館	参加者 50名
内容	<p>今月は松本青年会議所の事業を11月の勉強会にさせていただきました。</p> <p>以前より作成されていた「松本かるた」。松本市の合併等もあり、新・松本安曇野かるたとしてリニューアルされました。それを記念し、地域の宝を探すフォーラムが開催されました。講演として久世 良三氏(株式会社 サンクゼール社長)のお話を頂きました。</p> <p>最初東京から飯縄高原へ移転され、ペンション経営を展開。家庭を顧みず、仕事に夢中となり、別れ話に・・・その後、長野県三水村にてジャム・ワイン、その他食品の製造販売 ワイナリー、レストラン、売店等の直営を手がけ、現在に至ります。起業当初は10万円からのスタート。経営に行き詰まった話しや、それでも事業を継続していく上での、応援団のお話。事業を行う私としても大変参考になるお話を頂きました。</p> <p>雇用の創出、地域資産の活用など、地域で経済活動を行う上での、様々なヒントやアドバイスがありました。また一流を目指すあくなき高みを目指す姿勢は非常に素晴らしいお話でした。</p> <p>その後、パネルディスカッションが行われました。今回のカルタのデザインをされた柳沢 京子氏(株式会社柳沢京子事務所)、地域ブランド等にお詳しい、武者 忠彦氏(信州大学 経済学部 助教授)、また市民から松本をPRする新まつもと物語の代表の林 勇司氏の3者によるディスカッションです。</p> <p>松本の持つ地域資産の可能性を語られるとともに、どのような展開で今後まちづくりを行うのかなどが示唆されました。</p> <p>日本人は戦後、経済活動は熱心に推進してきたが、社会活動は推進してこなかった。成熟化された現在、これからの社会において、日本人による社会活動の重要性について語られ、市民運動共に、行政サイドでも、「公」の意識をもって活動していく必要があることに気付かされました。</p>	
レジュメ	なし	
その他 当日の様子	【当日の様子】	



長野県三水村にてジャム・ワイン、その他食品の製造販売 ワイナリー、レストラン、売店等の直営を手がける

久世良三氏(株式会社 サンクゼール社長)のお話をお聞きました。

会社設立は当初10万円から事業をスタートし、現在70名を超えるスタッフとともに地域貢献をしているお話は感動的でした。



松本の宝を見つめ直すシンポジウムとして

- ・柳沢 京子氏(株式会社柳沢京子事務所)
- ・武者 忠彦氏(信州大学 経済学部助教授)
- ・林 勇司氏(新・まつもと物語代表)が演者として参加。

常に古いものを壊し、新しいものを作る消費型まちづくりに警鐘をならし、今ある資産・財産で地域作りをすることを提言されていました。



J Cメンバー以外にも多くの松本政経塾の塾生の皆様にご参加頂きました。多くの気づきや新しい発見が出来たと思います。